

令和元年度第3回まちづくり懇談会

「船橋市PTA連合会」

1. 日 時：令和2年2月10日（月） 午後1時30分～2時30分
2. 場 所：市役所9階第2応接室
3. テーマ：防災に強いまち「船橋」にするために
 - ①保護者と学校と連携した災害対応
 - ②学校での備えについて

●団体

日ごろから行政の皆様には大変お世話になっております。今日はよろしくお願ひします。

○市長

よろしくお願ひします。PTA連合会としていろいろな形で、それぞれの学校でも活動していただき、ありがとうございます。

今回は防災がテーマですが、去年は台風15号により県内では甚大な被害がありました。市内では人命にかかわるような被害はなく、他の自治体の支援を続けながら、市内の被災した方の支援も行ってきました。鋸南町には、現在も土木系の職員を派遣して支援を続けています。

学校と行政がどうやって子供達を守っていけるのか整理し切れていない部分が非常に気になり、皆様の色々なアイデアをお伺いできればと思います。

●団体

今回は「防災に強いまち船橋にするために」をテーマとしました。議題は、保護者と学校と連携した災害対応、学校での備えについてです。これらの議題について、地元で活動している会長方から、去年の台風の時に起きた体験や考えをお話します。

●団体

昨年の台風では、小中学校を含めて市内に65カ所の避難所が設けられたと聞きました。私が住んでいる夏見台地区は、海老川が氾濫する危険がある重点地区を含むので、八栄小学校、船橋中学校などの10校でいち早く避難所が開設されました。

私は、夜8時半ごろ八栄小学校に向かったところ、市の職員3～4名と同時でした。市職員は、すぐに避難所開設の準備を始めました。今までの訓練では地震を想定して体育館を避難所としていましたが、千葉県南部では家屋の屋根が吹き飛ばされた事例が非常に多かったため、体育館ではなく、急遽、家庭科室に避難所を設けることになりました。

市職員は、訓練と違ったことが起きたものの、今まで八栄小学校に来たことがないので、校長先生や教頭先生、自治会長、福祉協議会の方が分からず、学校の物資を借りるにも声をかけられません。日頃のコミュニケーションがないからです。私はすぐに教頭先生に必要な物資の用意をお願いし、20分ぐらいで避難所開設ができました。日頃からPTAや、おやじの会の人達は校長先生や教頭先生、学校の職員を知っているので非常に声をかけやすい。また、学校の施設を熟知しているため、どういう動線を確認したら避難者をスムーズに誘導できるか、どこに受付を設置したらいいか、すぐに思い浮かびます。私達は、コミュニケーションの面や学校の施設を熟知しているので、こうした時に有効に働くことができると思います。

●団体

昨年、学校とPTAで、児童のために非常時の1食分用意するという協議を学校と行いました。年明けに児童約800名分の水と米粉クッキーを購入し、備えています。6年生が卒業して、1年生が入ってきた時には、1年生の分をPTA会費の負担で備え、備蓄品が常に児童数分あるようにしています。

●団体

児童の精神的ケアについて、どのように学校として動いていくのか、市として動いていくのか、保護者としてどうしたらいいかを考えています。私はいろいろな団体に所属し、個人的にいろいろ被災地支援を行ってきました。災害で

学校が約2週間避難所となり、学校再開後の子供達にちょっとした変化が起きたことを一番近くにいる先生方が気付きます。学校ではどのようなことができるのか、また、保護者とどう連携していけるのかを考えていかなければならないと感じました。

●団体

この先、風水害の被害が発生する可能性が高いと思います。学校が避難所になるわけですから、避難所開設、運営に当たって、PTAがどう関わっていくのかについて考えていきたいと思っています。

この間の防災フェアで、自治会の方が中心で参加されていたと思いますが、高齢化が非常に目立ち、7割から8割が高齢な方だったと思います。実際に避難所を開設した場合、高齢の方だけに任せることは非常に問題だと思います。そこに我々30代から40代のPTAのメンバーの関わりが大切だと思います。自治会の方達は、日頃スクールガードなどもやっていただいているので、日ごろのコミュニケーションが大切だと感じています。

避難所は、準備だけではなく、訓練が必要だと思います。いつ起こるかかわからないので、日頃から備えるのは当然ですが、実際に災害が起こった時に、動けるようにしないといけないと思います。

避難所の運営マニュアルを拝見しましたが、これに基づいて実際に避難所を開設できるのかと思うところがあるので、それに備えた訓練が必要だと思います。今後、課題として、地域の方と取り組んでいきたいと考えています。

●団体

ここ数年、防災についていろいろ関わってきましたが、この避難所運営マニュアルも、いろいろなことを想定して作られたもので、大丈夫だと思います。

災害が起こった時には中心になるのは自治会だと思いますが、どのような地域づくりをしていくのかは自治会ごとに決めたほうがいいと思います。地域が50あるとしたら50のやり方があり、地域ごとに災害対策を進化させていくのいいと思いました。

●団体

内閣府の報告書を抜粋したものを配布したので、ご覧になってください。北海道の事例ですが、報告書には、PTA、PTA関係者、生徒が率先して動いて避難所を開設し、早期に学校再開につながったということが書かれています。

これを読んで、本当にひざを打ちました。私はPTAの会長だけでなく、地域の防災担当もやっています。船橋市だけではなく全国的な問題として、自治会はどこも高齢化が非常に進んでいます。過酷な労働を実際に高齢者が行うのは難しいと思っていました。

しかし、この報告書を読んだら、PTAや自治会の方々が、避難所を立ち上げたという事実がありました。私達PTAは体力もあるし、学校や自治会などとコミュニケーションを常にとっていて、学校の中もよく知っているし、それぞれが専門能力を持っています。その力を活かすためには、日頃の訓練が大切です。ぜひ訓練については、市にイニシアチブをとってほしいと思います。

市役所に危機管理課という部署があるわけですから、教育委員会と連携をして、自治会を含めて話し合う場を設けていただきたいと思います。

●団体

先月、学校の土曜参観に参加したところ、5年生が防災について自ら調べて発表していました。土曜参観は、保護者の出席がかなり多くあり、低学年だとお父さんの出席も結構あります。こういう機会に、学年別に防災のテーマを与えて、子供達に考えてもらえれば、クラスごとにいろんな意見が出て防災の知識が小さいころから培われるのではないのかと考えました。校庭で初期消火の訓練や応急手当の訓練などの体験もいいと思います。学校と保護者が一緒になって教育の中で防災の知識を付与していくということが大事ではないかと思えます。

前原小学校で、体育館に児童と保護者、地域の方が1泊して、体育館に宿泊体験するというのがあります。そこに備蓄倉庫の見学や簡易トイレの組み立てなどをやることによって、保護者や地域の人を知るきっかけになると思います。備蓄倉庫の期限間際のものを使えば、効率よく備蓄品を用意できます。

○市長

皆様のお話を伺って日ごろの学校と地域のコミュニケーションが根底にあるのが分かり、とても心強く感じました。各学校で防災訓練を行っている市は少なく、一点集中型で、セレモニー的にやっているところが多いですが、本市ではそれぞれの地域によってやり方も違うし、それぞれ顔を合わせたほうがいいだろうということで、各学校で防災訓練を行っています。

この中には町会・自治会で活動している方もいると思いますが、30代から40代の中堅クラスの方達に、どうやって町会・自治会に入ってもらえるかが大きなテーマとなっています。今回、非常に積極的なご意見をいただいたので心強いです。

御滝中では避難所運営協議会の会則を作り、PTAも関わって立ち上げて、防災以外にも日頃から地域の人達と関わっています。日頃のコミュニケーションがないと、防災だけ一緒にやりましょうといっても、うまくいかないと思うので、例えばお祭りやスクールガードなどでコミュニケーションをとってもらえるといいと思います。

市としては、防災訓練を秋に変更しますが、PTA連合会の人達にやってもらいたいことを伝えますので、防災訓練の時に取り入れてほしいことがあれば、ぜひ言っていただければと思っています。先程、トイレの話が出ましたが、風水害の時は学校のトイレは基本的には使えますが、地震の時は使えません。

風水害と地震では、対応の仕方が全く異なりますが、今までは地震を想定した訓練を行って来て、風水害についての訓練はあまり行ってきませんでしたので、今後の検討課題になっています。

例えばこの瞬間に地震が起きた時に、学校では先生が仕切ることになっていて、3.11の東日本大震災の時も、何日も帰れない先生がいました。市の職員が普段学校に行っていないというのは大きな課題であり、これは市で考えないといけないと思います。非常参集の職員は一定数割り当てていますが、職員も数が多く、異動もあり、連絡の手段がまだ確立されていません。LINEのグループのようなものをつくったほうがいいと思っています。

子供達のケアについては、災害時には避難所の中での対応になると思うのですが、保健師が健康管理とともに子供達の様子をチェックします。そのため、自前の保健師だけではなく、他の自治体にお願いをして、来てもらうことになります。

船橋市は災害協定を全国の様々な市と結んでいます。中核市で離れているところ同士で災害協定を結び、何かあった場合にすぐ被災地に入れる体制にしています。

地域によってやり方が違うという話がありましたが、コアになる部分は変わらないと思います。これから、外国人の支援も非常に大事になってくる中で、マニュアルをもっとシンプルに書かないといけないと思っています。国際交流協会で、泊まり込みの訓練をやっていますが、これは先進的な取り組みで、全国から視察に来ています。

飯山満中では、中学生達が防災倉庫の備蓄品を体育館に持って行きます。そうすれば生徒は自分の学校に何があるかが分かります。地域の人と一緒にトイレを組み立てたりしているので、そうしたやり方もぜひ参考にさせていただければと思います。

●団体

私の自治会でも、今度は生徒を呼んで行いたいと思います。

●団体

市長が言ったとおり、地域と学校の連携というのが大切だと思います。学校のため、子供のため、地域のためという意識がある人ばかりではないと思います。そうした時に音頭をとるのは、やはり学校側だと思います。

飯山満中学校のことは、今初めて聞きましたが、とてもよい取り組みだと思いました。市や学校側から、例えば飯山満中でこういうことをやっているからどうですかとPTAに働きかけてもらえると入って行きやすいと思います。

○市長

事例の紹介をもっとやっていかなければいけないと思いますので、保護者世代の人達にどうやって伝えるのがいいのかを考えています。PTA連合会の研究大会で防災をテーマとして各学校で特徴的な取り組みを発表してもらい、防災フェアなどにPTA連合会の人達に来てもらったりするのもいいと思います。

●団体

各学校からメールかLINEのアドレスをもらい、全校とつながって、PTA連合会のネットワークを利用して、配信できれば情報伝達が素早くいくかなと思っています。

○市長

学校からの発信については、それぞれの学校で悩んでいます。昔のように連絡網みたいなものをつくれないう感じになっています。コロナウイルスの話もありますが、保護者の連絡手段も考えないといけません。

●団体

台風で停電した時、連絡が取れないうえ、市のサーバーがダウンして学校からのメールが来ないことがありました。情報の確認もできず、伝達もなく、すごく不安だったという意見を聞きました。災害の時はデマも多いため学校側や行政側から情報を出してもらえると安心できると思います。

○市長

学校のメールと市ホームページのサーバーがダウンしまして、申しわけございませんでした。市のホームページは県のセキュリティサーバーを通らないと、見られない仕組みになっていて、県のサーバーがダウンしたことで、動かなくなりページ更新ができませんでした。

県のサーバー強化については県知事にも直接お願いしました。

●団体

連絡手段がものすごく重要です。

●団体

学校の事務室に通信機がありますが、バッテリーで市役所と直接連絡がとれるのは2時間だけです。課題が山積みになっていますので、できることからこつこつとやっていきたいと思っています。

○市長

市も一気に全部はできませんが、少しずつでも改善できるようにしていきます。

声をかけていただければ、時間をつくりたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

●団体

はい。普段から話し合える環境を整えていただければと思います。

●団体

まちづくり懇談会のお話を、2月22日の会長懇談会で報告をして、理解を深めていきたいと思っています。

○市長

市としても、PTA連合会の皆様世代とどうやって、連携してコミュニケーションをとっていくかが大きなテーマでしたので、これを機会に進めていきたいと思っています。

今日は勉強になりました。ありがとうございました。

●団体

ありがとうございました。

— 了 —